

第四節 交通・通信

一 交 通

交通の発達

熊野町は山間盆地にあり、主要な交通幹線から外れていた。近代になってからも、山陽線のルートとして、あるいは、呉線のルートとして、考慮されたこともあったが、いずれも盆地であり、標高が高いため、ルートとならなかった。そのため、交通の近代化もかなり遅れたのである。

熊野と盆地外の地域を結ぶルートは、矢野に至るルート、二河川に沿って焼山、呉に至るルート、熊野川に沿って熊野跡から瀬野に至るルートなどがあった。これらのルートはいずれも人の通ることを主とした道路であり、近代的な自動車の通行できる道路ではなかった。

こうした近代的な道路改修の工事は、明治三十六年（一九〇三）一月になって、ようやく行なわれるようになり、明治四十一年、難所の矢野峠の改修が進み、近代的な道路として、自動車の通行が可能となった。『筆の町。熊野誌』

また熊野から呉方面への県道が整備され、大正五年熊野く神山峠間の県道が開通した。

一方、鉄道の方は、明治三十六年十二月に、海田―呉間が開通し、熊野町の人は、矢野駅から鉄道を利用するようになった。これにともなって、前述のように、矢野までの県道が整備されるようになったのである。

表5-4-1 熊野、矢野、海田市間自動車時間表（昭和4年）

（海田市行 左ヨリ右へ）⇒

7.00	7.40	上下 7.57 8.10	8.00	上下 8.47 8.16	上下 8.29 9.42
8.20	9.00	上下 9.58 9.29	9.30	上下 9.54 9.35	上下 10.30 9.42
12.20	1.00	上下 2.13 1.24			
2.20	3.00	上下 3.18 3.29	3.20	上下 4.14 3.34	上下 3.02 3.23
4.20	5.00	上下 5.18 5.29	5.20	上下 6.14 5.34	上下 7.03 6.02
6.30	7.10	上下 7.37 7.28			
熊野	矢野	呉線連絡	海田市	呉線連絡	本線連絡
9.00	8.10	上下 7.57 8.10	8.00	上下 7.53 7.14	上下 6.46 7.20
11.00	10.10	上下 9.58 9.29	10.00	上下 9.54 9.35	上下 8.29 9.42
2.00	1.00	上下 12.44 12.08			
4.15	3.30	上下 3.18 3.29	3.20	上下 3.14 2.30	上下 3.02 2.00
7.10	6.25	上下 6.20 6.19	6.15	上下 6.14 5.34	上下 4.59 6.02
8.40	7.40	上下 7.37 7.28			

⇐（熊野行 右ヨリ左へ）

（細数字八午前
太数字八午後）

賃金表

熊野				
10	川角			
20	10	平谷		
50	45	40	矢野	
55	50	45	10	海田市

（単位は銭）

『熊野商工案内』による

表5-4-2 熊野、呉間自動車時間表

7.00	→	発 8.55
9.30	→	同 11.35
12.30	→	同 1.50
3.30	→	同 4.55
6.00	→	同 7.55
9.20	→	同 11.15
熊 野	呉	呉線連絡
←	8.00	着 7.32
←	10.35	同 10.32
←	2.00	同 1.19
←	5.00	同 4.53
←	8.10	同 8.10
←	11.00	同 10.51

熊野、瀬野間自動車時間表 (昭和4年)

5.40	→	上 7.06 下 7.04
10.40	→	上 12.44 下 12.14
4.00	→	上 5.19 下 5.48
熊 野	瀬 野	本線連絡
←	7.10	上 7.06 下 7.04
←	1.00	上 12.44 下 12.14
←	6.00	上 5.19 下 4.48

(細数字ハ午前)
(太数字ハ午後)

賃 金 表

熊野			
25	本庄		
50	25	神山	
80	55	40	呉

賃 金 表

熊野			
25	新宮		
50	30	熊野跡	
80	80	60	瀬野

『熊野商工案内』による

表5—4—3 吳線時刻表(昭和4年)

上

發 驛	廣 島	海 田 市	矢 野	吳	着 驛
廣 島	5.15	5.31	5.37	6.16	吳
同 國	6.40	6.54	6.58	7.32	同
岩 廣	7.40	7.53	7.57	8.32	同
	8.35	8.47	8.52	9.26	同
	9.40	9.54	9.58	10.32	同
	11.00	11.13	11.17	11.51	同
	12.25	12.39	12.44	1.19	同
	1.55	2.09	2.13	2.47	同
	3.00	3.14	3.18	3.53	同
	4.00	4.14	4.18	4.53	同
	5.00	5.14	5.18	5.53	同
	6.00	6.14	6.20	6.54	同
	7.20	7.33	7.37	8.10	同
	8.40	8.53	8.58	9.30	同
	10.00	10.14	10.18	10.51	同
	11.20	11.33	11.38	12.11	同

吳
近
代

下

發 驛	吳	矢 野	海 田 市	廣 島	着 驛
吳	5.43	6.18	6.24	6.36	己 斐
同	6.35	7.09	7.14	7.25	廣 島
同	7.35	8.10	8.16	8.27	同
同	8.55	9.29	9.35	9.46	同
同	10.15	10.49	10.54	11.05	同
同	11.35	12.08	12.14	12.26	同
同	12.50	1.24	1.30	1.41	同
同	1.50	2.25	2.30	2.41	同
同	2.55	3.29	3.34	3.45	岩 國
同	3.55	4.29	4.34	4.45	廣 島
同	4.55	5.29	5.34	5.45	同
同	5.55	6.33	6.40	6.52	同
同	6.55	7.28	7.34	7.45	同
同	7.55	8.28	8.34	8.46	同
同	9.35	10.07	10.13	10.24	同
同	11.15	11.48	11.54	12.05	同

(細數字ハ午前 大數字ハ午後)

『熊野商工案内』による

バス交通

昭和四年（一九二九）刊行された「熊野町商工案内」によると、当時熊野町から矢野・海田まで、熊野―呉間、熊野―瀬野間に熊野自動車合資会社によるバスが走っており、熊野―矢野間は四分、さらに二〇分で海田まで至っている。そして、そのバスは矢野、海田市で呉線、山陽本線に連絡していた。所要時間も、交通渋滞等を考えれば、今日と大差ないが、むしろ早いくらいである。

また熊野―呉間は約一時間であり、呉駅で呉線に連絡している。熊野―瀬野間は約一時間半近くかかったようで、これも瀬野駅で国鉄に連絡している。

運行回数からみると、熊野から矢野、海田市行きが六往復、熊野―呉行きが同じく六往復で、広島方面と呉方面はほぼ同じ強さの結びつきであったと思われる。熊野跡村を通過して瀬野に至るルートは、やや少なく、一日三往復しかない。運賃は熊野から矢野まで五〇銭、海田市まで五五銭であり、かなりの運賃である。熊野から呉までは八〇銭、熊野から瀬野までも八〇銭である。したがって、多くの人は徒歩によることが多く、大抵は、熊野から矢野まで歩き、矢野から国鉄を利用したようである。

呉線との関係

このバスは昭和十七年（一九四二）バス事業統合化により広島電鉄へ統合された^{『矢野町誌』}。ちなみに、矢野から呉線をよく利用したので、当時の呉線の時刻表も出しておこう。広島―呉間は昭和四年当時も、かなり運行回数があり、上下一六便ずつある。始発は広島五時十五分、呉五時四十三分と、かなり早く、終発は広島十一時二十分、呉十一時十五分とかなり遅くまで運行していた。また所用時間は、広島―呉間が一時間足らずで、早い場合は五〇分であり、五〇年以上経った今日とあまり変わっていないことに驚く。

昭和期の道路

昭和に入ってから、自動車交通が発達するにつれ、道路の改修が一層叫ばれるようになり、昭和五年には、矢野峠の改修が再度行なわれた。また熊野から昭和西に至る道路も拡張・改修され

た。しかしこれらの道路も大半は未舗装で砂利道であり、車一台がやっと通れるものが多く、二車線の道路はまれであった。

二 通信

通信の発達

日本の近代的な郵便制度は、明治四年（一八七二）に始まるが、同年十二月に東京―長崎間に一日、上り、下り一便ずつの郵便輸送が行なわれた。同時に広島からは山県郡本地を経て石州浜田へ郵便路が開通した。

明治七年十一月には広島県内の郵便線路図が作成され、熊野付近の郵便配布経路は、広島から海田を経て矢野に至り、さらに庄山田（呉）に至るルートとなっており、このルートの枝線として熊野があった。

郵便局

明治二十六年には、熊野にも郵便局が設置され、三等郵便局ではあるが熊野町に専用の郵便局が誕生したわけである。局舎は現在の中学校西前の位置であった。最初は通常郵便のみ扱っていたが、明治四十三年までに、小包郵便、内外国為替、郵便貯金、和文電報等も取り扱うようになった。

その後大正五年（一九一六）には簡易保険、大正九年には電話が開通し、外国和文電報も取り扱うようになった。さらに大正十五年には郵便年金、昭和三年には月掛貯金、昭和六年には熊野跡町を集配区画に編入した。これより先、昭和四年には、コンクリート建ての郵便局が完成した。

電話

電話は大正九年前述したように開通したが、大正十四年、加入者七〇名となり、電話交換事務が行なわれるようになった。

戦時中のようす

昭和十七年における熊野郵便局の業務状況は、貯金受入れ一七三万九七二五円、為替受入二四万九〇八五円、為替支払三四万三三〇一円、簡易保険七一三六件、切手売上二万四九六八円、小包引受二万〇一一九件、電報発信五〇〇六件、同受信六三四五件、市外電話発信二万四九五件であった。

ラジオ このほかラジオが開設されたのは、広島中央放送局が開局された昭和三年のことであった。

表5-4-4 熊野郵便局のおいたち

年度	局長	貯金受入	為替受入	為替支払	簡易保険	切手売上	小包引受	電報発信	同受信	電話市外
明二六	羽山 豊	七九円	七三円	二、八〇〇円	—	三五円	—	—	—	—
三一	世良保良次	九六	四、四三	二六、二六	—	五九六	六四八	—	—	—
三六	〃	三、九五五	七、二二六	四七、一〇九	—	二、一五一	二、〇三六	—	—	—
四一	遠山 省三	二、六七七	一四、六四四	五六、八二七	—	二、九四四	五、七四四	—	—	—
大二	〃	一三、〇四	—	—	—	六、九九六	一四、六四一	—	—	—
七	遠山 厚	一三、〇四八	四、〇六一	—	六六	七、四七七	一、九六九	—	二、五四三	—
一二	〃	一七、〇一八	一三、三三六	—	四九〇	二、八六八	二、〇一四	四、八六五	三、九八七	—
昭三	〃	四三、〇七	九六、六七八	—	一、五九三	一四、〇〇六	二六、三六一	三、六六六	四、九二	—
八	〃	三六、四四	一〇〇、七四	—	二、八〇六	一四、八九五	三〇、八八	三、四二〇	四、六七	—
一三	〃	五九、四八	一九四、八〇	—	三、七九五	一六、三七七	二七、九四六	四、三三	五、七九	—
一七	〃	一、七九、七五	二四九、〇八五	—	七、三三六	二四、九六八	一〇、二九	五、〇〇六	六、四四五	—
二五	遠山 隆嗣	二七、五六一、四八	四、三英、四九	—	三、九八六	一、四六〇、三〇五	一七、〇九八	四、三二九	四、七七八	—
二八	〃	四四、八九〇、六四	八、一五、七六一	—	四、六七二	四、二二三、四一八	二六、九九六	四、一八	五、三三	—
三一	〃	六五、三七七、九五	二五、六七、五七	—	三、七四〇	五、六四一、九四七	三三、八〇	四、二三五	五、四七七	—

備考 空白の欄は資料がないため調査不能、但し簡易保険は大正五年より取り扱いを開始した。